



5月の管理

地温確保と間断灌水により出芽促進を図りましょう。

1. 水管理

地下部や根の活力を高めるためにも、間断灌水に心がけて、新芽の出る環境をつくりましょう。

※ 断根した圃場では、特に間断灌水に努めましょう。

2. 施肥

追肥については、施肥基準を基に施肥量を検討して下さい。また、止肥は収穫30日までに施しましょう。

※ 遅くまで追肥を行うと、イグサが軟弱・充実不足・ムラ染めの原因になります。

3. 倒伏防止網の管理

茎を垂直に立たせることにより、茎の受光体勢を良くし、茎の充実促進と元白(根白)を抑えます。網は弛まないように強く張り、茎の伸長に合わせて、こまめに網を上げましょう。



4. 防風ネットの設置

防風ネットには、

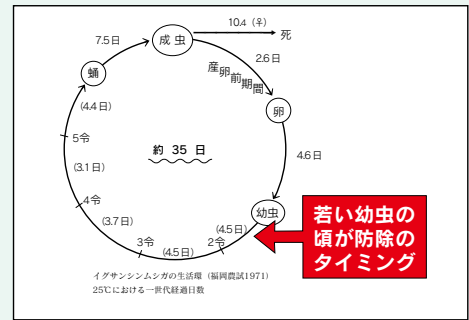
- ① 風による 脱水症状や伸長抑制の防止。
- ② 畦畔沿いイグサの品質低下軽減(ムラ染め防止)などの効果が期待されますので是非とも設置しましょう

5. イグサシンムシガの防除

イグサシンムシガの発蛾最盛期は4月16日頃(平年並み)となりました。

次世代の発生は5月下旬と予想されますので、圃場をよく見回り観察し、蛾の発生を確認してから防除を行って下さい。

※ 畑苗床への防除も同時期に行いましょう。



ストップ! 農作業事故

田植え作業の安全 人間工学専門家・石川文武

早場米地帯では田植えが始まっていますが、多くの地域では4月末から5月が田植えの時期です。田植え作業の安全を考えましょう。

苗代作りまではトラクター作業なので省きます。育苗では、種子の準備と土の準備があります。苗箱への土入れと播種(はしゅ)は機械で行えるのでそれほど危険はありませんが、その後の苗箱の運搬は人手に頼ることが大半です。1枚は軽量ですが、何枚かを重ねて運ぼうとすると作業姿勢によっては腰への負担が大きくなります。軽量と侮らないでください。

育苗と並行して機械の点検があります。植え付け爪で手を傷つける事故が多発しています。動力で軸を動かした状態での点検は避け、手動でチェックすることが安全です。マーカーが正常に作動しているか確認することも必須です。

移植では、苗マットの受け渡し時に足を滑らせる事故や、不自然な姿勢での受け渡しによる腰への負担が発生します。受け渡しは機械を農道に近づけて行いましょう。

植え付け中にしばしば起こる事故として、サブソイラの溝にはまることがあります。トラクターはタイヤの幅

が広いので、溝に落ちることはありませんが、田植機では鉄車輪ということもあって沈車します。沈車すると救出のために周囲が踏み荒らされ、再度植え付けする時間と苗のロスも生じます。植え付け条数と暗渠(あんきょ)の間隔を念頭に置き作業しましょう。

植え付け中に点検などで機械から降りることがあります。乗り降り際には、ステップを踏み外すことのないよう、靴裏の泥をしっかりと落としましょう。

作業終了後に圃場(ほじょう)から退出するときに、進入路の傾斜や表面状態・進行速度によっては前輪が浮き上がることがあります。田植機の前側に重り代わりに補助者を乗せることは絶対に避けてください。植え付け部を低く下ろし、再低速で退出するようにしてください。



射手座 11/23~12/21
 ♡全体運♡ ささいなことでイライラしやすい月。人の言葉の揚げ足を取るのは避けて。いつも笑顔をキープできれば開運に
 ♡健康運♡ 簡単な柔軟体操で体をほぐすとグッド
 ♡幸運を呼ぶ食べ物♡ カブ